

探究に役立つ『課題研究の方法』を聞きに行ってきました 研修（出張）報告

研修名	第6回高大接続改革フォーラム その1 大学入試改革の動向と課題研究			主催	文部科学省大学入学者選抜 改革推進委託事業 (主体性等分野)	
日時	6/5 (火)	会場	関西学院大学		報告者	T.T
内容	今後の入試で重要視される課題研究、探究の取り組み方について					

【報告】フォーラムの第一部の報告です。(第二部は Japan e-Portfolio の活用についてです。後日報告します。)

以下、印象に残った点を箇条書きで列挙します。

☆いただいた資料は、下記フォルダにアップしてあります。

→分掌／研究開発部／外部研修／180605 大学入試改革の動向と課題研究

スライド 20,24,27,38,39,42,48,54 に注目

講演者 岡本尚也 氏 (啓林館の「課題研究メソッド」の著者)

探究活動は必須

◇学習指導要領も大学入試も以下の3点を要求。(たとえ一般入試でも)

- ①深い学び → 問いを見いだして解決。
- ②対話的な学び → こどもどうし、教員や地域の方と。
- ③主体的な学び → 自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら。

・探究のためには、課題設定の前に、詳細な情報収集が必要。「分からない」が大切。教員は教えすぎない。

◇探究活動の教育的意義とは = 批判的思考力≡問いを立てる力 を養う。

・スライド 27 参照 とりあえず、こんなことを問うてみよう。

- | | | |
|---|---------------------|----------------------------|
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; transform: rotate(-15deg); display: inline-block;">注目!</div> | 問いの種類 ① 言葉の定義や意味を問う | 「〇〇の定義は?」「〇〇の意味は?」 |
| | ② 因果関係を問う | 「なぜ〇〇は生じているのか」 |
| | ③ 信憑性を問う | 「〇〇は本当に生じているのか」 |
| | ④ 比較をおこなう | 「〇〇はどの程度進んでいるのか」 |
| | | 「〇〇の進行度は地域によってどのように異なるのか」 |
| | | 「他国ではどのくらい〇〇が進んでいるのか」 |
| | ⑤ 先行事例・研究を問う | 「〇〇に対してどのような取り組みが行われているのか」 |
| | ⑥ 影響を問う | 「〇〇によってどのような事が起こるのか」 |

・問える＝「知っている」から「理解している」への昇華。問いがあるから知識や技能がある。

◇研究テーマの設定と探究のポイント 研究テーマは決めるもの（決まらない）。

- スライド 42, 43 参照
- 知識がないと決められない。（しつこく調べる）
- マジックワードに注意。別の言葉に言い換えよう。
マジックワード＝抽象的でふんわりした言葉。グローバル社会、世界平和など。
- 中間発表を2, 3回おこなおう。指導するより良く伸びる。

◇校内体制整備について

- 「努力」≠「時間と労力を使うこと」。追加追加のサイクルから脱却しよう。
- 引き継ぎ・見直し どちらも大切。記録せよ。（特に達成できなかった理由）

→共有フォルダにアップした以外に、ご希望ならば録音もあります。1時間10分ほどです。よろしければ、声を掛けてください。

以 上

探究に役立つ『課題研究の方法』を聞きに行ってきました 研修（出張）報告

研修名	第6回高大接続改革フォーラム その2 JAPAN e-Portfolio の活用について			主催	文部科学省大学入学者選抜 改革推進委託事業 (主体性等分野)	
日時	6/5〔火〕	会場	関西学院大学		報告者	T.T
内容	今後の入試で重要視される課題研究、探究の取り組み方について					

【報告】フォーラムの第二部の報告です。

以下、印象に残った点を箇条書きで列挙します。

☆いただいた資料は、下記フォルダにアップしてあります。JAPAN e-portfolio の説明書もあり。

→分掌／研究開発部／外部研修／180605JAPAN e-Portfolio

スライド 18, 25, 31, 35, 37, 40, 58, 70, 93 - 103, 115, 121 に注目

講演者 尾木 義久 氏（関西学院大学 アドミッションオフィサー）

社会が変われば、必要とされる資質・能力が変わる

◇これまでの社会学習指導要領も大学入試も以下の3点を要求。（たとえ一般入試でも）

これまでの社会

これからの社会

- | | | |
|----------------------|---|---------------------------|
| 1. 工業化社会 | → | 知識基盤社会 |
| 2. 知識技能の習得と再生 | → | 知識技能の活用 |
| 3. 効率的に1つの
正解を求める | → | 複数の納得解を見つけ出す
「答えのない学び」 |

- ・変化の激しい（予測できない）社会においては、生涯学び続ける能力が必要とされる。

スライド18参照

◇探究活動は、3年間取り組むべき(?)。入試で必要とされるなら。

- ・何を学ぶか、どのように学ぶか。主語は「生徒」
- ・気づきに対する記載から学びに向かう姿勢がはかられる。
- ・「ティーチング」から「ラーニング」へ。「アクティブラーナー」の育成（生徒も教員も）

スライド25, 31 etc. 参照

◇学習成果は、生徒自身が把握すべきもの。

- ・日々の記録をポートフォリオなどを通じて残す。そのことで成長を自覚することが大切。
- ・学校はカリキュラムマネジメントをし、その評価をするべし。

スライド35 - 38 参照

◇大学が求める学生

- ・「明確に」学ぶ目的。意欲を持った学生が活躍する。そんな人材がほしい。
- 関学での調査では、
- ①入試を突破する学力があれば、
 - ②入試席次と入学後の成績に相関はない。



◇一般入試でも主体性を測りたい

- ・e-Portfolio を利用し、各大学がほしい情報を切り取って、生徒が提出データを作る。
 - ・使い方はいろいろ。
- ①情報を絞って、全員の主体性を数値化。（大学の負担大か？）
 - ②当落ゾーンの受験生のみ主体性を利用して判断。
（関学は②にしそうな口ぶり。個人の感想ですが）



→共有フォルダにアップした以外に、ご希望ならば録音もあります。1時間10分ほどです。よろしければ、声を掛けてください。

以 上

高3人権教育(東京 2020 年大会開催に向けて) 授業参観報告

日時	6～7月	学年・組	高3各クラス
担当	各クラス担任、人権担当	場所	各 HR 教室

高3では、人権学習の一環として、「異なる文化や特徴を持った人たちを受け入れるために大切なことは何かを考える」という活動を行いました。

＜実施の流れ＞

クラス内で6人程度の班を作り、各班に1国（中国、インドなど）が割り当てられるので、その国の特徴を調べ、3日間の滞在プランを作る。

◇1～2時間目

- ・ブレインストーミング法で思いつく語をできるだけ挙げ、関連性を考慮したイメージマップを作成する
- ・各班からの1名で構成された新たな班をつくり、内容を報告しあう（ジグソー法）

◇3時間目

- ・班を2つに分け、発表原稿作成と発表用模造紙作成に取り組む

◇4時間目

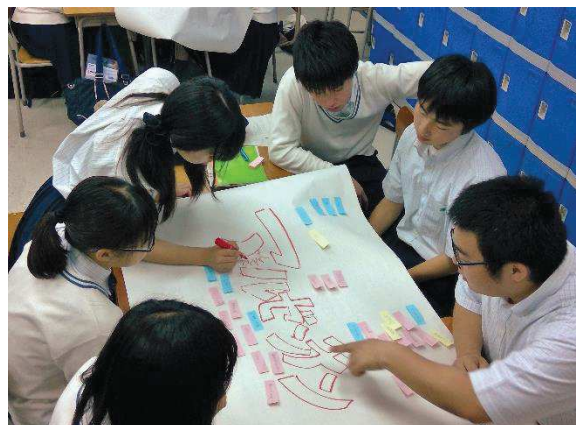
- ・班ごとに発表し、聞き手は評価シートに記入する
- ・総括として、様々な国の人をもてなすのに必要な共通点は何かを考える

＜教具・資料＞

- ・タブレット端末 ・ワークシート ・評価シート
- ・参考資料（おもてなし成功談、おもてなし困難事例、マナー・タブー集など）

＜取り組みの様子＞

- ・多くの班が、食のタブーやマナーなど相手の文化への配慮が充分ありながら、日本の文化を知ってもらうための体験やチャレンジが含まれた、とても充実したプランを立案していました。
- ・発表も、寸劇仕立てにしたり、ちょっとしたパフォーマンスを取り入れるなど、意欲的なものでした。



付箋に書いたキーワードを出し合う



発表の様子① 中国の人を「おもてなし」



発表の様子② 寸劇を取り入れた発表

【感想等】2017年の訪日外国人数は2869万人。日本経済に及ぼす影響は言うまでもありませんが、このことが、学力3要素の3つ目である「主体性・多様性・協働性」を学ぶよい教材となることも見逃してはなりません。この高3の取り組みや、有志による「観光甲子園」への応募（残念ながら全国大会出場はかないませんでしたが）などがその例だと思います [T. T]

☆今回の授業を約3分に編集したダイジェスト動画を下記にアップしましたので、ぜひご覧ください！

「全体」→「研究授業・公開授業」→「H30」→「授業動画」→「1806-07 高3人権」
また、各クラスで撮った動画や資料など、詳細が知りたい方は、担当のK先生にお問い合わせください。

『立命館附属校・提携校中堅研修』に行ってきました

研修（出張）報告

研修名	2018 年度 附属校・提携校第1回 中堅研修 ～新・学習指導要領から考える授業づくり・学校づくり～			主催	立命館教育研究 ・研修センター	
日時	7/10〔火〕	会場	立命館朱雀キャンパス		報告者	T.T
講師 ・ 内容	講師；Y先生（リクルート『キャリアガイダンス』編集長） ①「新学習指導要領」の理解を通じて、生徒にどんな資質・能力を育むか？ ②これからの授業づくり、学校づくりにどう取り組むか？					

【報告】 以下、印象に残った点を箇条書きで列挙します。

☆もらってきた資料は、下記フォルダにアップしておきますので、ご覧ください
→分掌／研究開発部／外部研修／2018

◇初芝立命館や育英西の先生方と以下のようなテーマでグループワーク（意見交換）をしました

- ・「アメリカの小学校に入学した子どもたちの 65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう」「今後 10～20 年で 47%の仕事が自動化される可能性が高い」といったことから、生徒に何を伝えるか？
- ・人間が AI（人工知能）よりも勝れると思われることは何か？
- ・AI や IoT（モノのインターネット）がさらに進化していく中、生徒たちにどんな資質・能力を育むか？
- ・新学習指導要領キーワード①「**主体的な学び**」ってどんな学びか？
→受験や就職のためではなく、「将来につながる学びであることが大切」
- ・新学習指導要領キーワード②「**見方・考え方**（育成を目指す資質・能力）」って？
→各教科等の学習の中で働くだけではなく、将来の生活の中でも重要な働きをするもの

☆駒場東邦中学校 2017 算数の入試問題

「いままで算数を学んできた中で、実生活において算数の考え方が活かされて感動したり、面白いと感じた出来事について簡潔に説明しなさい」

☆聖心女子大 M 先生の言葉

『**見方・考え方**』は教えるものではない。働かせたくなる場面をいかにつくるか」

- 新学習指導要領キーワード③「探究」とは、どんな学びか？
→自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していく。
各教科学習の「見方・考え方」も相互に働かせる。
「？」を「！」に。

「教科学習は扇の扇面、総合（探究）は扇の要」

- 新学習指導要領キーワード④「ポートフォリオ、キャリアパスポート（仮称）」

※「キャリアパスポート」とは…（竹内注）

；「一人一人の児童生徒が、各教科等において経験してきたそれぞれのキャリア形成にとって重要な学習活動を振り返り、それらの学びを通した自らの成長や変容を自己評価できるポートフォリオのような教材」（筑波大学藤田晃之教授）

→文科省だけでなく、厚労省も積極的に推進しているもので、ポートフォリオよりも長いタームで考える、よりキャリア教育的な要素が強いもののようです。

◇研修を通じて勇気をもらった言葉。

☆外部の力で割れた卵は死を迎える。

内部の力で割れた時、初めて命が誕生する。

偉大なことは、常に内発的なものから始まる。

☆やりたいこと（will）、できること（can）、すべきこと（must）
が求められる

☆授業こそ、「キャリア教育」

【感想等】

研修には、講義形式のものとワークショップ形式のものがありますが、本研修は、講義とワークショップ（グループワーク）がおおよそ半々のバランスで、とても有意義でした。立命館の附属校や提携校の先生方と交流できることは楽しく、気分的にもリフレッシュされます。第2回も行われると思いますので、研究開発部以外の先生方も積極的にご参加ください。

以 上

高1探究(総合) 授業参観報告

日時	7/20〔金〕6限	学年・組	高1-7・8・9
担当	各担任, S・Y・S先生	場所	記念ホール

今回は、3クラス合同のSTEP6「高めあうプレゼン」について報告するのですが、まず、「初めてのプレゼン」終了後からここまでの流れを説明します。

STEP4「困っている人を思う」各HRで約2時間

- ・「困っている人」を想像し、付箋に記入しブレスト
- ・「VSシート」でチームの困っている人を決定
- ・チームで決めたことを発表

STEP5「困っている人を助ける」各HRで約3時間

- ・困っている人を助けるアイデアを決定
- ・アイデアをまとめてプレゼンの準備

そして、この日、「困っている人」を助けるアイデアを、グループがペアになってプレゼンし合うという中間発表を行いました。

＜プレゼンの方法＞

- ◇1グループ3分でプレゼンし、聞いたグループはコメントシートに記入、その後質疑応答
- ◇発表側と聞く側が交代して同様にプレゼン
- ◇ローテーションで相手グループを変更
- ◇これを3セット実施

＜プレゼンの様子＞

各班が想定した「困っている人」は、

「難民」、「就職難の若者」、「眠れない人」、
「子育てしている人」など様々で、

助ける方法としては、

「難民だけの国をつくる」、「就職マッチングのアプリを開発する」、「サーモグラフィーAIで体温管理するマットを開発する」、「子供も大人も喜ぶ施設を建てる」などのアイデアが発表されていました。



発表の準備中



2グループがペアになって発表します



「アプリ開発」で困っている人を助ける

【感想等】「初めてのプレゼン」では、課題が与えられましたが、現在取り組んでいるのは、自分たちで課題を見つけ、その解決に取り組んでいくというものです。1～6組は、8月の最初の授業で同様の発表を行います。今回の中間発表を受けて、各グループでは、さらに内容をブラッシュアップし、社会課題との関りを考え、ポスターセッションや最終プレゼンに向かっていきます。今後の展開にもご期待ください。
[T.T]

☆今回の授業を約3分に編集したダイジェスト動画を下記にアップしましたので、ぜひご覧ください！

「全体」→「研究授業・公開授業」→「H30」→「授業動画」→「180720 高1 探究」

『私立学校中堅教員研修会』に行ってきました

研修（出張）報告

研修名	平成 30 年度私立学校中堅教員研修会（西日本会場）			主催	日本私学教育研究所	
日時	8/1〔水〕～2〔木〕	会場	京都ガーデンパレス		報告者	T.T
講師・内容	Ⅰ「私立学校の現状と課題」；N 先生（日本私学教育研究所所長） Ⅱ「主体的・対話的で深い学びをつなぐカリキュラムマネジメント」 H 先生（東京電機大学工学部人間科学系列教授） Ⅲ「e-ポートフォリオを学ぶ」M 先生（東京学芸大学情報センター教授） Ⅳ「中堅教員の使命～学校組織の中核として期待されていること～」 N 先生（沖縄尚学高等学校附属中学校校長）					

【報告】 以下、印象に残った点を箇条書きで列挙します。

☆もらってきた資料は、下記フォルダにアップしておきますので、ご覧ください
 →分掌／研究開発部／外部研修／2018

I 「私立学校の現状と課題」；N 先生（日本私学教育研究所所長）

- ◇私立学校は**建学精神**（創立者の理想・想い）を**教育に生かす**ことが大切
 - ・生徒指導、教科指導、部活、進路指導で建学精神を現代にマッチした形で生かす
- ◇私学を取り巻く環境の変化に対応する必要がある
 - ・**イノベーション人材の育成**／多国籍化（**グローバル化**）／**AI**（人工知能）への対応
- ◇「主体的・対話的で深い学び」で「**学習の量から質へ**」
 - ・「**パフォーマンス評価**」はフィギュアスケートの採点法（技術＋演技構成）と似ている
 →学力をパフォーマンスへと可視化して学力を解釈（具体的にはルーブリック表利用）
- ◇学校の若手教員のスキルアップについてグループ討議しました
 - ・若手教員に求められるスキルとは。リーダー的存在として何ができるか。

II 「主体的・対話的で深い学びをつなぐカリキュラムマネジメント」

H 先生（東京電機大学工学部人間科学系列教授）

- ◇学び（教育）の定義
 - ・学習者自身が、**幸せに生きるための賢明な判断力や行動力**を身につけ、**幸せに気づく知性と感性**、他者とともに**幸せな世界を創るコミュニケーション力**などを身につけること（を支援する行為）
- ◇現実に企業が求める人材；最も重視するのは**コミュニケーション能力**
- ◇2つの**PBL**（**問題解決学習**と**プロジェクト学習**）のちがいは
 - ・学習目標（ゴール）が設定されているか（前者）いないか（後者）
 →しかし、2つは連続的につながっている

- ◇AL とは、教授スタイルでなく学習スタイル。**授業をデザイン**（構造化）すべし
→「**教える教師**」から「**支える教師**」に意識を切り替え
- ◇「**カリキュラムマネジメント**」（教師視点の改善）→「**カリキュラムイノベーション**」（学校視点の改編）
→「**スクールイノベーション**」（学習者視点の改革）へ
- ◇**パフォーマンス課題**；学んだ知識・技能（レゴブロックのようなもの）を素材として、教科の本質的な見方・考え方（完成イメージ）を使ったパフォーマンスを要求する課題
→中学地理で「東北6県を活性化するための提案を創る」というパフォーマンス課題に取り組みました。

Ⅲ「e-ポートフォリオを学ぶ」M 先生（東京学芸大学情報センター教授）

※パワーポイント資料はありません。

- ◇ポートフォリオは「野球ノート」みたいなもの
 - ・しかし、野球ノートを書いたから試合に勝てるわけではない
 - ・**パフォーマンス課題がなければ、練習だけして試合をしないようなもの**
- ◇**e-ポートフォリオ**は貯めることが目的ではない。
 - ・**学びを深め、学びの成果を「見える化」するもの**
- ◇学力観の変化；**21 世紀型能力（ジェネリックスキル）**が入試でも要求される
 - ・ジェネリックスキル；知識を関連づける分析的思考力や論理的表現力
 - ・経済産業省の「**社会人基礎力**」も「**前に踏み出す力**」「**考え抜く力**」「**チームで働く力**」であり同様
- ◇「**学ぶ**」とは、自ら考え、「気づく」こと。「**定着する**」とは、自らの言葉で「説明できる」ようになること
 - ・対話的学び；仲間との対話（**相互評価**）／教師との対話（**教師評価**）／自己との対話（**自己評価**）の3種類

Ⅳ「中堅教員の使命～学校組織の中核として期待されていること～」 N 先生（沖縄尚学高等学校附属中学校校長）

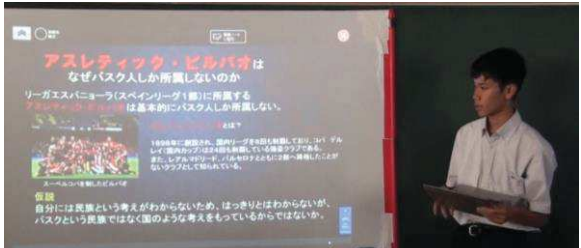
- ◇中堅教員の2つの使命
 - ・**組織の目標・使命・目的の達成に貢献する**
 - ・**組織の心理的安全保障（ハラスメントフリーな職場）に貢献する**
- ◇沖縄尚学の目指すもの；**グローバル教養人**の育成
 - ・世界をフィールドに世界でやっていける人
 - ・グローバル高校生；人間力、日本語での学力（教養）、英語力、異文化対応力
- ◇**異文化対応力**の公式
 - ・目標の共有と相違点の理解→規範の共有→言動の実践→**帰属意識の共有**
→異文化対応力とは、上記公式を用いて帰属意識共有の方向へと向かわせる能力
- ◇**奉仕・ボランティア活動**の設計；沖縄尚学ではボランティア体験を重視
 - ・「～のために」という思い、考え、発言、行動が基準
- ◇「留学生の受け入れ」「ボランティア活動」等で留意することなどをディスカッションしました。

【感想等】

2日間の研修ということで、グループワークやディスカッションの時間も多くあり、他府県の私学の先生方とも交流でき、貴重な機会でした。私学の研修ということで、「私学の存在意義」や「公立との違い」などの話も含まれていました。例えば、「公立学校は住民サービス、私立学校は個人サービス」や「私立学校は建学精神と結果のバランスが大切」といったようなことです。その他、教育改革に関するトピックについての話も盛りだくさんで、この紙面では説明しきれませんので、共有フォルダの資料をご覧になっていただき、不明な点やご意見などがございましたら、いつでもお知らせください。

以 上

高2 世界史B「世界史の疑問を探究する」授業実践報告

日時	7月～8月（5コマ）	学年・組	高2 文系（世界史選択）
担当	T.T	場所	選択⑥
高2 世界史「世界史の疑問を探究する」 1. 世界史に関する疑問を自ら設定する 2. その答えとなるべき「仮説」を発想する 3. 調査の結果、「納得解」を導き出す 4. 結果をクラスでプレゼンし、相互評価する 1時間目： 各自で「問い」を立て、それに対する「仮説」を考え、それを班内で発表し、班員から意見をもらいました。 2時間目～夏休み期間： タブレット（インターネット）等を使って疑問について調べ、自分が最も納得できる答えを導き出し、それを「発表ノート」または「PowerPoint」のスライドショーにまとめ、プレゼンの準備をしました。 3時間目： 8月最初の授業で発表原稿を作成し、リハーサルを班内で行って、班員からアドバイスをもらいました。 4～5時間目： 抽選で選ばれた人が最初、あとは出席番号順に全員がクラス内で1人3～5分のプレゼンを行い、それに対して全員が「話し方」「内容」「スライド」の3点でポイントをつけて評価しました。 <設定された疑問の例> ◇宗教はなぜ生まれたのか ◇なぜ日本人は外国人に比べて身長が低いのか ◇西洋の服装と日本の服装に違いがあるのはなぜか。 ◇なぜ英語が世界共通語になったのか ◇かつてはどのようにして他言語を理解していたのか ◇イギリスとイングランドはどう違うのか ◇高度な文明を築いていた中国が西洋諸国より発展が遅れるようになったのはなぜか ◇サッカーは何故ここまで人気スポーツになったのか		 班内のリハーサルでブラッシュアップ  アスレチック・ビルパオはなぜバスケットしか所属しないのか リーガスバニョーラ（スペインリーグ）に所属するバスケットボール選手は基本的にバスケットしか所属しない。  《日本の服（和服）》 弥生～古墳時代前期の庶民の服装が発展したものに、隋・唐時代の中国の服装が影響を与え、飛鳥・奈良時代、着られていたような服装に。遣唐使廃止後、独自に発展。 ↓平安時代の貴族の服装 聖徳太子（唐本御影） 壁面美人（高松塚古墳）  ② 英語が多国語を取り入れて造られた簡単で使いやすい言語であること。 英語はその成り立ちから国際的な言語であった。 中国語が母語 13億人 英語が母語 4億人 発表の様子とスライドの例	

【感想等】「調べ学習」の延長であり、「探究活動へのステップ」という位置づけになるかとは思いますが、自ら「問い」を設定して「仮説」を立てたこと、他の人の意見を聞いてブラッシュアップしたこと、発表形式で表現力を試されたことなどは、生徒にとっても、私にとっても意味のある経験になったと思います。また、疑問の「解答」は一つに確定できないものが多く、いくつかの説の中から「納得解」を導き出すというのも重要なポイントです。生徒たちが調べてきたことの中には、「目から鱗」の発想があったり、現代社会にも活かせる教訓があったりと非常に興味深いものでした。以下のダイジェスト動画以外に全体をご覧になりたい方は、ご連絡ください。 [T.T]

☆今回の授業を約3分に編集したダイジェスト動画を下記にアップしましたので、ぜひご覧ください！

「全体」→「研究授業・公開授業」→「H30」→「授業動画」→「1807-08 高2世界史」

研究開発部通信

中高

2018 Vol.18 2018/10/15

中2が科学の甲子園ジュニア大阪大会に参加しました。

日時	8/8〔水〕	学年・組	中2 3, 4組の 3名×2チーム
担当	S 先生	場所	大阪府教育センター 附属高校

この大会は、中学生が科学の楽しさ・面白さを知り、科学と実生活との関連に気づくことを目的に茨城県つくば市で開催される「科学の甲子園ジュニア全国大会」(12月7日～9日)の大阪府代表選考会として開催されました。

大会の参加対象は府内の中学校1・2年生で、1チーム3人の団体戦です。6回目となった今年の大会には、15チーム44人が、学校を代表して参加しました。

当日は、今まで取り組んだことのない、科学と数学が融合された問題に対して、それぞれが得意分野を活かして果敢に挑む姿や、チーム全員が力を結集して答えを導き出したりするなど、すばらしいチームワークが見られました。

入賞はできませんでしたが、参加した生徒たちにとって、仲間と協力する楽しさ、科学のおもしろさを感じるよい機会になったようでした。

来年も多くの人が挑戦してくれることを期待します。

高校生は10月21日の「科学の甲子園大阪大会」に1チームがエントリーしています。

府教育庁ニュースに、結果が出ていますので、こちらのアドレスでご覧ください。

<http://www.pref.osaka.lg.jp/kyoikusomu/news/news198-6.html>

相談しながら、一生懸命
問題に取り組んでいます。



終了後の記念写真です。
リラックスした表情がいいですね



【感想等】呼びかけ、指導、引率のS先生、K先生のご努力もあり、初挑戦ができました。参加した生徒たちの楽しそうな様子が印象的でした。来年度以降も続けられるよう中1に声をかけ始める予定です。

[T. T]

中3 総合学習「クエスト＜企業探究コース＞」授業実践報告

日時	1/23〔水〕・30〔水〕 6限	学年・組	中学3年生
担当	中3学年団	場所	HR・視聴覚教室・記念ホール

中3がこの1年間をかけて取り組んできた「クエスト」。実在の企業から与えられたミッションに答えるべく、グループでアイデアを出し合い、それをプレゼンテーションの形で発表します。

全国大会へとつながる「クエストカップ」への応募は12月に済ませていますが、校内でのグランプリである「はつとんカップ」を目指して、1/23に企業別発表会（予選）、1/30に学年全体での代表発表会（決勝）を行いました。

企業からのミッションは、「未来志向の『商品』、『サービス』や『事業』の提案をせよ」といったものがほとんどです。それに対して生徒たちが考えた提案は、

- ◇落としても見つけやすいコンタクトレンズ(メニコン)
- ◇どこでも発電できる太陽光シート(Panasonic)
- ◇ポータブル軟水←→硬水変換器(HIS)
- ◇顔認証や位置情報が使える新型クレジットカード(クレディセゾン)
- ◇視聴者がプロデューサーとなって夢を叶える番組(テレビ東京)
- ◇全天候型で災害時にも役立つテーマパーク(良品計画)

などです。プレゼンは7分間で、その後に生徒たちが評価シートに記入します。また、決勝では、各プレゼン毎に教育と探求社の方から講評をいただきました。

●この1年の取り組みを学年の先生方に振り返ってもらいました。

Q. この1年で生徒の伸びを実感できたのは、どのような点ですか？

A. 自分が意見を出すことによって、プロジェクトの内容がブラッシュアップされるということを経験できたのが大きいと思います。論理的思考力や協働性、「プレゼン力」も、この1年で相当向上しました。

Q. 難しかった点、課題となった点はどのようなところですか？

A. やはりまだ中学生なので、世の中の動きについての知識が充分ではなく、せっかく考えたアイデアがすでに実用化されているということが多く、また、それらを調べるスキルも当初は不十分なものでした。ただ、今回の経験をへてレベルアップできたことは良かったと思います。

Q. 今後、「クエスト」に取り組む学年に対して何かアドバイスはありますか？

A. 中3は海外研修があるので、前半の取り組みで省略できるところは省略し、企業からのミッションをできるだけ早くもらうなどして、中間発表後の「練り直し」に十分な時間を確保する必要があると思います。



企業別発表会（HR）の様子



代表発表会（記念ホール）の様子

【感想等】今年度で3年目となる「クエスト」の取り組み。学年の先生方が、生徒たちの「頑張り」を引き出し、時には授業の枠を越えて、生徒たちが一生懸命に一つのプロジェクトを作り上げていくのをサポートしている姿を見て、感心するとともに、時にはうらやましさを感じました。この経験は、生徒たちの「学びに向かう力」を向上させるだけでなく、「生きる力」にもなっていくのではないかと思います。3年連続の全国大会出場、おめでとうございます。
[T. T]

☆今回の授業を約5分に編集したダイジェスト動画を下記にアップしましたので、ぜひご覧ください！

「全体」→「研究授業・公開授業」→「H30」→「授業動画」→「1901 中3クエスト」

高1・2 ビブリオバトル(決勝大会)

授業参観報告

日時	1月23日(水)〔高1〕・2月15日(金)〔高2〕	学年・組	高1・2
担当	高1・高2学年団	場所	記念ホール

☆ビブリオバトルとは…

各自が面白いと思う本を5分で紹介し、聴いた人が「どの本が一番読みたくなったか？」を基準に投票する書評合戦です。

本校では、以下の手順で実施します。

1. 冬休みに各自が読書し、紹介する本を決定
2. 各クラスで予選を行い、クラス代表を決定
3. 学年全体で決勝を行い「チャンプ本」を決定
4. 高1・高2・図書委員の代表が最終決勝を実施

高1・2それぞれの学年決勝では、登壇者が「さすがにクラス代表」と思える堂々とした態度で発表を行いました。ただ単に本の内容を紹介するだけでなく、ユーモア等を交えながら聴衆を惹き付け、話の核心を「寸止め」するなどの工夫が見られました。

特に高2の発表では、生徒たちの中から爆笑や驚きの声が盛んに起こるほど発表者の話術が巧みで、そのスキルは、教員側も大いに学ぶところがありました。

なお、投票の結果、『オリエント急行の殺人』(高1-7 後呂嘉希くん)、『鳥類学者だからって、鳥が好きだと思うなよ。』(高2-8 木田義人くん)がそれぞれ「チャンプ本」に選ばれました。

●今回の取り組みを国語科主任の W 先生に振り返ってもらいました。

Q. ビブリオバトルをやってみて良かった点は？

A. 読書をすることが知的好奇心を高める良いきっかけになっただけでなく、それを発表することで表現力も向上したと思います。また、読書によって磨かれる、どちらかといえば「受動的」な思考力を、発表することによって「能動的」な思考力に発展させられるのが、ビブリオバトルの良いところだと思います。



推薦本を提示しながら発表します(高1)



学年発表会の様子(高1)



クラス代表の紹介(高2)

【感想等】両学年とも決勝大会を参観させていただきましたが、小説、エッセイ、ドキュメンタリー、名言集…と選ばれる本の幅も広く、その本の特徴(他と比べて際立っている点)についての熱の込められたアピールは、大変興味深いものでした。10代に読む本というのは、時に人生を決めるといっても大仰ではないような役割を果たすことがあります。そして、ビブリオバトルは、その感動を自分のものにするだけでなく、人にも分け与えられるという点が素晴らしいです。 [T. T]

☆今回の授業を約5分に編集したダイジェスト動画を下記にアップしましたので、ぜひご覧ください！

「全体」→「研究授業・公開授業」→「H30」→「授業動画」→「190123 高1 0215 高2 ビブリオ」

高1 探究総合「ソーシャルチェンジ」

授業実践報告

日時	2/20〔水〕	学年・組	高校1年生
担当	高1学年団・S・Y・S	場所	記念ホール

高1がこの1年間をかけて「探究総合」で取り組んできた「**ソーシャルチェンジ**」。

世の中の「困っている人」を見つけ、その背景となっている「課題」を発見し、「**解決策**」を考えていくということにグループで取り組んできました。

この日は、数クラスずつまとめて行った「ポスターセッション」の相互評価で上位にランクされたグループによる**プレゼンテーション発表会（校内決勝）**です。

この日発表された提案は、以下の通り。

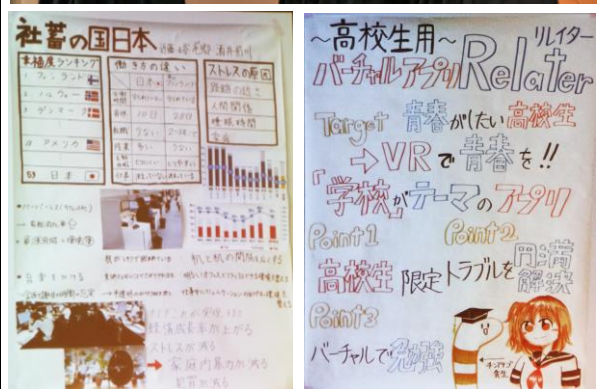
- ◇バーチャルアプリの普及で「青春」したい高校生を救う
- ◇さまざまな就業支援でニートを救う
- ◇栄養治療食（RUTF）の普及で難民を救う
- ◇労働環境の改善で過労状態の労働者を救う
- ◇子育て支援で育児放棄状態の子どもとその親を救う
- ◇「ゲル」の普及で難民の子どもたちの教育環境を整える
- ◇正しい知識や理解を広めることでうつ病の人を救う

プレゼンは7分間で、その後に生徒たちが評価シートに記入します。

この1年を振り返っての生徒のコメントを紹介します。

《生徒のコメント》

- ・将来もこのような感じでクリエイティブなことをしたいという思いが強まった。
- ・諦めずに、思考停止にならず、粘り強くいれた。
- ・自分がやらなくては、という責任感を自分に付与できたのも、また将来につながる。
- ・自分が将来仕事で何かを提案するときには、データなどの根拠に基づいたものにしようと思った。
- ・自分がなりたいと思っているような大人になって日本を支えるには、このような授業を受け、アイデアを出す方法を知ることとはとても重要だと思う。



プロジェクターで投影されたポスター

【感想等】今年度から始まった高校での探究活動。「答が一つでない問い」に対する「納得解」を探す作業、しかもそれを協働で行い、発表するという経験は、生徒にとってもそれをサポートする教員にとっても有意義です。担当の先生方の頑張りもあり、これで高1の探究活動については、まだ改善の余地はあるものの一定の道筋はつけられました。高2では、各自がテーマを見つけ、「研究」的要素を持つ探究活動を行っていきます。様々な面で「パイオニア」となる高校35期生。今後の活躍に期待が持てます。〔T.T〕

☆今回の授業を約5分に編集したダイジェスト動画を下記にアップしましたので、ぜひご覧ください！

「全体」→「研究授業・公開授業」→「H30」→「授業動画」→「190220 高1 探究総合」

●本号が今年度の最終号です。一年間、ご愛読ありがとうございました。バックナンバーは、

「分掌」→「研究開発部」→「一般の先生用」→「研究開発部通信」→「2018」にあります。